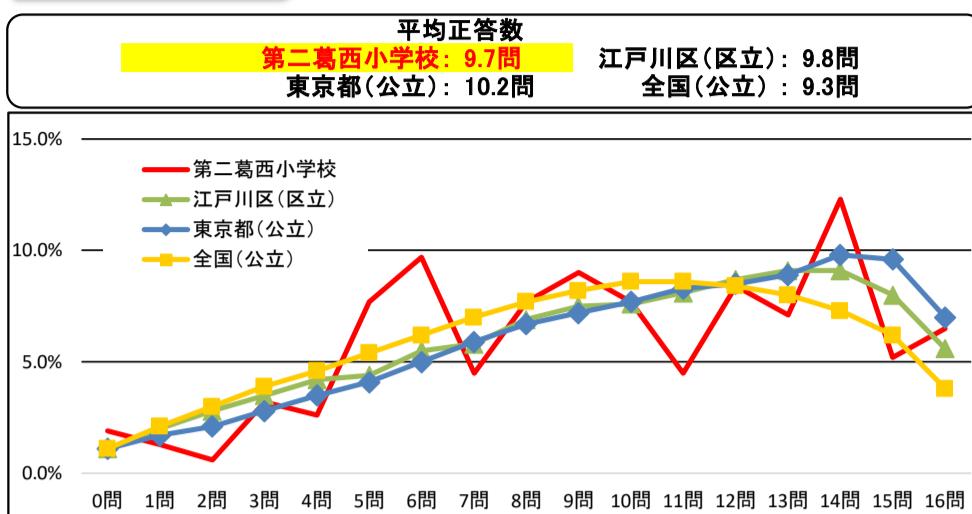


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】第二葛西小学校

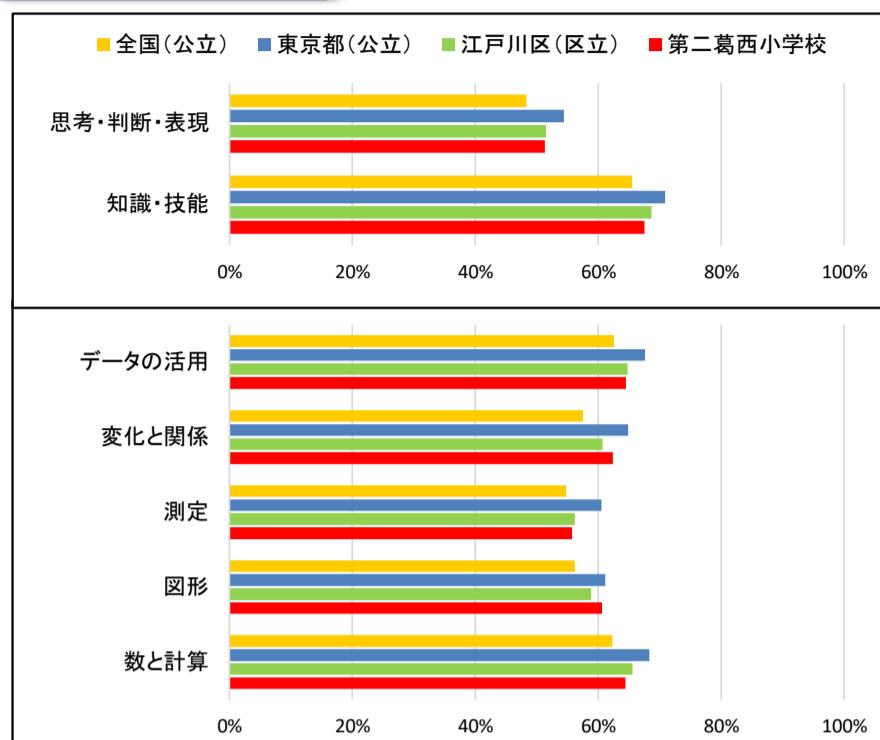
正答数分布



【平均正答率の差】

校名	平均正答率
第二葛西小学校	60%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-4.0

「領域別」の結果

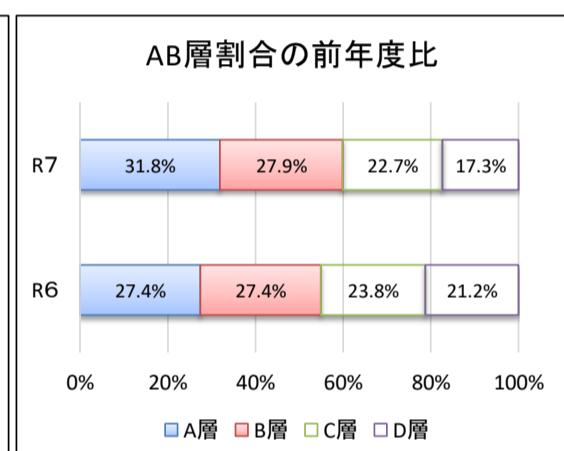
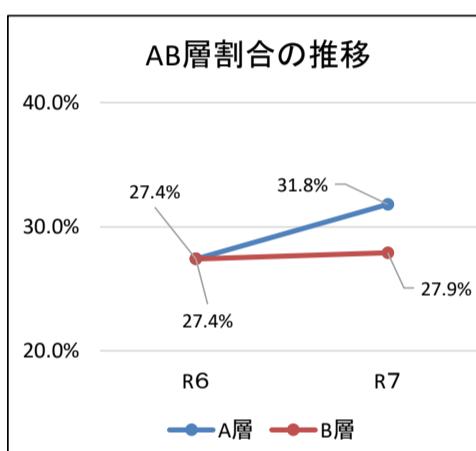


四分位における割合 (都全体の四分位による)

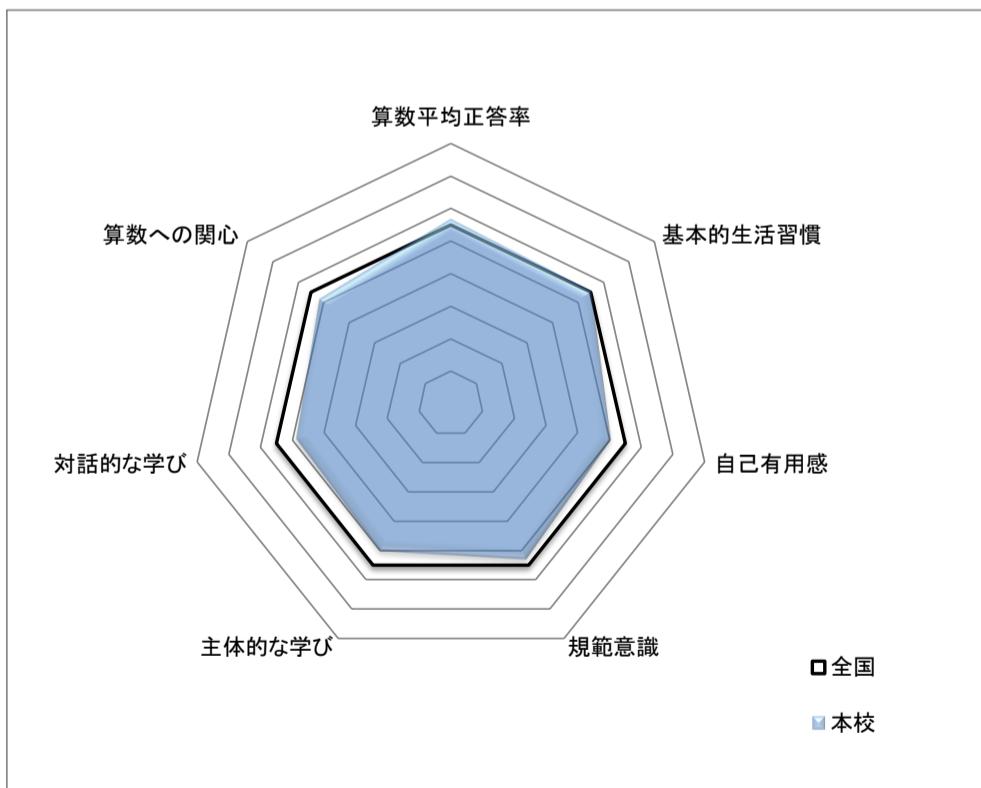
上位 ← → 下位

算数	四分位			
	A層	B層	C層	D層
第二葛西小学校	31.8%	27.9%	22.7%	17.3%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・算数平均正答率と基本的生活習慣は、平均を上回っている。
- ・他項目の肯定的な回答については平均を下回っている。特に算数への関心、自己有用感、主体的・対話的で深い学びを積み重ねてきているという実感が低い。肯定的な回答の根柢となる事実を確認していくことも有効であると考える。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・個人面談で児童一人一人の不得意とする学習内容についてを伝え、学校と家庭が協力して学力向上を図る。
- ・学校のホームページに調査結果を掲載し、今後の取組等を発信している。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 - ・昨年度と比較して、D層の割合は減少し、A・B層の割合が増加している。
 - ・特にA層は27.4%から31.8%へと、4.4%の増加であった。
 - ・平均正答率は、全国と比較すると+2pt、東京都と比較すると-4ptであった。
 - ・算数への関心が高くなかった反面、「算数の授業はよく分かりますか」「算数の授業は社会に出た時に役に立つと思いますか」の質問に対しての肯定的な回答の割合は高い。
 - ・本校の課題である「A・B層の育成」を今後も推進していくと共に、算数における強化校としての取組を実施し、さらなる学力向上に努めていく。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
 - ・若手教員育成研修会を毎月1回実施している。教科指導、生活指導、教員としての在り方等について、主任教諭より講話をを行い、自己研鑽の機会としている。
 - ・校内研究授業を毎月1回実施している。教員は選択したテーマごとに分科会に分かれ、指導方法の探究のため研究を行っている。全ての教員が一年間の中で必ず研究授業を行うため、分科会ごとに検討を行うようにしている。

・基礎学力の保障

- ・毎週金曜日の放課後、児童が自主的に残って自習に取り組んでいる。この時間は、児童からの質問に教員が対応し、学習の理解度の向上、定着を図っている。
- ・単元の系統性のある問題を精選して事前に児童に取り組ませ、児童の実態を基に習熟度別指導の編成を実施している。習熟度別の学習を通して、効果的な授業展開を行っている。
- ・放課後学習教室との連携により、基礎的な学習内容の補充を行う。
- ・児童の学習意欲を高めるため、給食準備時間中に校長室において、5年生を対象とし、自らの課題解決のための学習(ランチスタディ)を行っている。

・学習習慣の確立

- ・児童自身が家庭学習計画を作成することを通して、自らがどのように成長していくかの目標を立てられるようにしている。テストの有無や習い事の予定を考慮し、家庭学習の量や内容を自己決定することで、学びの自己調整力を養う。自ら学習するとの必要感をもたらすことで、学習する習慣を身に付けさせていく。
- ・朝学習や授業中に、ICT端末を用いて「ドリルパーク」に取り組み、基礎学力の定着と共に、学習習慣を確立させていく。
- ・江戸川つ子study week!を通して、家庭学習の習慣の定着を目指す。

・AB層の育成

- ・児童が主体的に課題解決に取り組めるよう、既習事項の問題から考えるよう促している。必要に応じて個別指導を行うことで、学習意欲を伸長している。
- ・習熟度別の授業では、コースごとに児童の学力に合わせた授業を展開している。コースによっては自由進度学習を取り入れ、それぞれの課題に合わせた問題を解く時間を作っている。